

## 人間・この不思議な生きもの

### ——海岸砂防の変遷史——

畠山義郎

はじめまして。「秋田のこだま」の会からぜひ話してくれと言われましたが、私はあまり話が上手ではありませんので、話のポイントを聞いていただきたいと思います。

こだまの会がずーと長い間がんばっておられる、あの記録というのは、大変貴重なものであると思います。時代が過ぎるとその時代のこと全然分からなくなってしまうって、どういうふう人間が生きて、そして、その子、孫に過去というものがあるという形で伝承されていくのか、あるいは変わっていくのか、人間の歴史をたどる大変立派な事業なので、今後とも頑張っていたきたい。

まず、最も身近な「風の松原」を中心に話をすすめていきます。

『松に聞け』の出版社（日本経済評論社）の社長さんが、何年前かにこちらに来て雑談している時、私は「白神山地というのは営林署が間に合わないから伐り残した場所です、実際本当に苦勞して植えたのは、風の松原のような日本の海岸

砂防林だ。そこには本当の歴史がある」と話したことがあります。その社長さんは、その話がずーと気にかかっていたそうで、一昨年お会いした時、「あれを是非本にしてみたい」ということを持ちかけられました。私は「それはいいけれど、半年から一年、時間をくれないうか」と申しました。今まで何気なしに、砂漠と人間の関係などを調べていて『松に聞け』の倍ぐらいの原稿を書いておったわけです。社長さんいわく「今は一五〇〇円以上の本は売れないから、一五〇〇円以下の本にするために詰めてもらいたい」と言うのです。

「詰めるというのは書き直し」と聞くと、そうではなく、「青森、秋田、山形の三県の海岸線にとどめてもらえば、だいたいその分量になるはずだ」と言います。せっかく調べた世界の、あるいは日本国内のいろんなことについては全然読んでももらえないということになったので、今回はその方にも少し話をもっていきたいと思います。——（中略）——

古代遺跡はなぜ石垣だけ残ったのだろうか。簡単に申しま

すと、勢力のある人が城壁を造った。城壁以外の所に農民がおり、穀物、野菜、肉の安定供給をさせる。だんだん城壁国家が発達してくると人口が増える。それにもなって家畜が増え、それは草生の復元力を超えてしまう。ついには草の根まで食い尽くして、遊牧の民は移動し、さらにその範囲を拡げる。雨量が少ない地帯は、この人々が去った後、時間と共に砂漠化していく。アメリカやオーストラリア、中国でも同じことがいえる。

そうしているうちに、人類にとって画期的な銅や鉄の製造が始まる。製鉄のためには、高温の熱源を得るためにかなり大量の燃料を必要としたであろう。鉄鉄は一二〇〇℃以上にならないといひものが出来ない。鉄鉄の技術が世界で一番早く発達したのは朝鮮半島だそうです。

日本でも鉄が入ってきたとたんに、鉄を握った者が天下をとることになります。海岸でも山奥でも砂鉄の採れる所は片っ端から木が伐られていつて、それが全国に広まります。一握りの鉄を作るために、昔流にいうと何百棚（たな）の木を伐つて木炭にする。そんな調子で奈良、平安時代ときたわけだが、室町時代になると長期戦争が始まり、次第に木を使う余裕がなくなってきました。

佐賀県の「虹の松原」は海岸の砂防林として最も立派な木があるといわれますが、松の背が低く、屋根の高さぐらいです。風の松原のように立っていない。これは風のせいなのか

私はよく分かりません。いずれにしても古代に植えた松がちこちに見受けられます。

太平洋側の松は、津波よけにも利用されました。宮城県南、亘理（わたり）の海岸、静岡の三保の松原などです。高知県の松原は歴史は古いが、大東亜戦争のときに伐ってしまったということです。文献をみると、敵が上陸するから伐ったということですが、船などの用材として伐られたのだと思います。

海岸砂防林たったひとつしぼってみても、長い歴史があり、これからどうあればいいか、そばの問題から出発しないといけないと思います。今、地方の時代といつてるけれども、与えられた地方の時代など、木端屑でももらったような価値しかないものだということを、お互い分かなければならない、そういう時代だという認識が必要です。

私は来月満七十五歳になりますが、耳、目、足腰も悪い。しかし、黙っていない。書けるうちは書く。言えるうちは言う。このたびも「いい年して行かなくてもいいのでないか」と家内は言ったが、今行かなければ機会がないかもしれないと思って参上したわけだ。

この話を背景にして、身近な問題についてふれていきます。まず、青森県からいきます。本を読んだ方はお分かりでしょうが「なま首肥料の掟」を作って植林を奨励した。一つは

津輕のヒバ、ひとつは海岸砂防林、盗伐があるためどうにもならなくて、盗伐した人は打ち首にして、その体をそのまま肥料にする、と掟を決めたが、さすが海岸砂防林では一回も適用されたことは無かった。しかし、見つかって、松一千本植え付けの上、成木するまでの手入れの義務を課されたり、その場所の監視とか課された。

次に秋田県にいきます。まず、栗田定之丞についてですが、栗田定之丞が指揮した大内田あたりは、街道を越して砂が来て、道路さえ歩くことができなくなったという。そこで引越している。にっちもさっちもいかなくなって、栗田が指導者になってやって来た。しかし、栗田が来る前に藩で奨励して金を出してやらせていたが、木が生えれば来年金が来なくなるということ、死のうが生きようが植えればいいということ、三年位で藩でも気が付いて、栗田に「タダでやらせろ」という命令を出した。栗田は「藩の命令だ」という、それだけではとても一般の人を動かせるわけにはいかないうから、「これはあんた方が植えたのだから、あんた方の木だよ。ただし海岸砂防に影響あるような伐り方はできない。将来ににわたって」と言いました。

ところが明治に入って無政府状態になり、大久保利通が地租改正でどんな土地にも税金をかけるようになったので、自分の土地にも税金がかかるということで、農民は全部国へ渡しとしまします。その中でも頭の働く者は、薪などのほか用材

にしていまい、現在ではほとんど見当らなくなっていまいした。街道沿いの木とか、栗田神社の所とか、目印になる木が何本か残っているだけで、栗田の植えた木は全然残っていません。全部戦後の木です。

嘉藤景林は、米代川流域の秋田杉の銘木を保護し、また植林させながら、藩の木材による財政基盤に大いに貢献した人物として有名です。木都能代の木材産業に明治開化以来百年余にわたって秋田天然杉を安定供給させた神様です。彼はみづから植栽した海岸にほど近い地の中央、古松が林立するなかに、景林神社として祀られています。栗田定之丞の神社もあるが、一般の人はほとんど分からない。近くの市役所の出張所に尋ねて行ったが一人も分かる人が居なかった。

わたしが全国の松原を見て歩いた中で、風の松原が一番立派です。あとは伐られてしまったり、範囲が小さかったりです。もう三十年経つと風の松原は何十キロと長い距離になる。いつか、これを伐ることを考える人間が必ず居ると思います。金もうけが先だという人間はいつの時代も一番多いが、それに反対する人はいつも少ない。なぜ少ないかというと、皆何かでメシ食わねばならないから、金もうけする人の後に付いて行かざるを得ない。といって、伐ってしまったらそれきりだ。

風の松原についての課題は沢山あると思うが、一つは今の場所です満足すべきでない。それからマツクイムシを止める方

法の研究開発を急ぐべきだ。象潟の九十九島の松のマツクイムシ被害には三億何千万の費用がかかるので、戦々恐々しているはずだ。

能代市は今、産業の転換が求められています。能代市は天然杉で百年暮してきました。今度はそういう歴史を逆から起こしていく方法を考えてみたらどうかと思います。今の時代は何でも商品化する、目に見えないものも商品化したりする時代です。

岩手県の江差市木細工小学校の二十人の生徒たちのドキュメンタリー番組で、農作業を手伝っている場面があった。鋏の使い方、仕事の段取りなど小さい頃からやっている様子で、そういう生徒たちが中学校に行ってから自分を表現出来るように、先生が十年ほどかかって毎日詩をつくらせた。その記録の番組でした。今、子どもたちの日常生活と違うものが教科書に入ってきていて、それを詰め込もうとする。すると子どもは違和感を持つ。違和感を持った子は、大きくなって自分の身に付いたものをうまく社会に発表できない。社会の方でも、あれおかしいんでないか、と見てしまう。今、社会になじめない子が増えています。おかしい、おかしいと思っていることが、いつの間にか当たり前のように思えて来たり、当たり前のことがおかしいことのように錯覚したりする。そういう社会を誰がつくったか、誰がつくり変えることがで

きるかとなると、他でもない人間です。

自然を壊したのも人間、その壊した自然を直そうとするのも人間です。人間というのは単純なようだけれども、本当は何かを修正する力を持っているのです。それをやるとバカだと言われるから黙っているというのが最近の世相であります。小さなことから出発して、いろんなことを将来の生きていくための子孫の遺産として残すのが、現在生きている我々の使命でないかというのが私の言いたいところの全部です。

私が本の中で徳川時代の旅行者の文章を丹念に拾って書いたのは、その当時どんな暮しをして、どの程度のことを考えていたのか、それでよく分かると思っていたことでした。

「こだま」のようなものは素材だけれど、今すぐ役に立つというよりも将来に大きな遺産として残るのでないかと思えます。日本の再生のために、皆さんの知恵を結集して頑張ってほしいと思います。

#### ・講演会場

能代市萩の台・能代勤労者総合福祉

センター サウンウッド能代

・テープ起こし・整理 佐藤真理子

浅野 ミヤ